

【活動グループの紹介】

下総高校は千葉県で唯一の農・工・商の3学科を持つ専門学校です。本プロジェクトに取り組む園芸科野菜専攻の3年生6名は、人と環境にやさしい持続可能な野菜作りを実践しています。野菜専攻のみなさんは、授業や実習を通して、農や食、環境など、農業に関する幅広い知識を習得しています。特に有用菌を利用して有機質肥料を作り、野菜栽培に活用することを推進しており、地域特有の問題を有機質肥料として農業利用することで地域にやさしい野菜作りに取り組んでいます。栽培した野菜は地域の方に販売・提供し、還元しています。

[School | 千葉県立下総高等学校 | 創立100年以上の歴史を持つ総合専門学校](#)

↑学校の詳細はこちらから！

【取組の紹介】

「アメリカナマズを利用した光合成細菌を用いた取組み」では、地域課題の解決に向けて、農業の利活用に取り組んでいます。下総高校のある成田市では、利根川水系に外来魚が大量発生して生態系を荒らしたり、成田空港の滑走路造成工事による大量の伐採樹木が生じるなどの問題が生じています。下総高校では、特定外来生物であるアメリカナマズから培養した有機液肥「光合成細菌」を野菜栽培に利用してブランド化を図ったり、空港の伐採樹木を樹木チップに変えて堆肥化したりすることで、地域にやさしい持続可能な食糧生産を実現しています。それだけでなく、伐採樹木を活用した木工品づくりや、利根川水系の魚を展示する水族館の運営など、環境に配慮した地域資源の一層の活用に挑戦しています。



Q1 活動頻度はどれくらい？



時間割の中に週に3日野菜の農業実習が組み込まれていて、そのうち月曜日は連続した実習になっています。夏休みの期間も夏の実習として栽培管理をしています。

千葉県立下総高等学校
園芸科野菜専攻の
みなさんへ聞きました！

Q3 活動の中で大変だったことは？

成田空港から提供していただいた大量の樹木チップを攪拌させる作業が大変でした。水分を含んでいる大量の樹木チップを何度もかき混ぜなければいけないので、過酷な作業でした。



Q2 「CCFメロン」の名前の由来は？

「CCF」は、アメリカナマズの正式名称である、「Channel Cat Fish」の頭文字からとっています。ナマズ由来の有機肥料は「CCFメロン」だけでなく、広く野菜栽培に活用され、「下総CCF野菜」としてブランド化を図りました。文化祭で販売し、地域の方々から好評を得ています。



これからも
安心で安全な野菜栽培に
取り組みたい！

Q4 活動をどのように周知している？

文化祭での野菜販売が主要な周知の場となっています。また、成田空港のホームページでも活動を紹介していただいている。知名度は年々拡大し、「CCFメロン」は大体販売先が決まっています。さらに地域の方々に取組を知っていただくために、木工品の販売や校内の水族館に子供を招くことなどを考えています。



取材を終えて

取材の日は台風の予報が出ており、訪問が延期になるのではないかとヒヤヒヤしましたが、快晴の中で無事に取材を行うことができました。10月に入り、暑さは落ち着いてきていましたが、日差し直撃のガラス温室の中はとても蒸し暑く、真夏の作業は過酷だろうと思いました。

東京ドーム約5個分の広大な敷地を誇る下総高校には、専門学校ならではの充実した施設・設備が整えられており、今回の現地交流会では、野菜専攻のみなさんが管理しているガラス温室や水族館、工房を案内していただきました。地域の環境問題を資源に生まれ変わらせて活用し、地域に還元するというアイデアに感銘を受けました。木工品や水族館の取組はまだまだこれからの中の取組のようで、今後の発展がとても楽しみです！

お別れの際には、生徒のみなさんと対応してくださった先生方が校門まで来てくださいり、手を振って見送ってくださいました。生徒のみなさんの無邪気さと仲の良さに終始癒される現地交流会でした。この度は、お忙しい中、快く取材に協力してくださりありがとうございました。今後のご活躍とご発展を楽しみにしています！

